

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	地域の方が、その人らしく毎日を暮らしていられるようなサービスを提供できるよう心がけている。少しずつだが地域の住民にも理解していただいている。		
2 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	いつでも理念に沿った介護を提供できるように、全てのスタッフが統一した介護を行っている。		
3 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	ホームの中で見やすい場所に理念を掲げ、ホームを訪れる家族や地域の住民に周知を図っている。またホームページにも掲載し家族や地域の方に閲覧して頂いている。		運営推進会議の中でも理解していただけるよう取り組んでいた結果、以前よりグループホームとその生活の中での理念を理解していただいている。
2. 地域との支えあい			
4 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	入居者様とスタッフがホームの近隣を散歩し、挨拶を交わしたりしている。		地域の方がお菓子を持ってきてくださったりするが、ホームに遊びに来てくれるような良好な関係には至っていない。今後もこの課題に取り組んでいきたい。
5 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	町内会の行事や近隣で行われている催し物などに、出来るだけ参加するよう心がけている。町内会で防災対策部長を新たに任命し、施設の防災に町ぐるみで協力体制を築いてくれている。		町内で毎年夏に行われている仮装盆踊り大会には、1ヶ月前から仮装の準備を行い、当日は入居者様とスタッフ皆で仮装をして盆踊り大会に参加している。また今後は施設の防災訓練を地域の人々とともに取り組んでいきたい。
6 事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	地域の防災時には、施設として出来ることを提供するよう町内の役員と話し合いの場を設けている。認知症の理解や地域に根ざしたホームのあり方を考え、提供できるよう取り組んでいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>		開かれたホームにむけて少しずつだが取り組んでいる最中である。
8	<p>運営推進介護を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>		
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>		
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない注意を払い、防止に努めている。</p>		
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>		利用者様やそのご家族様には、契約する際また解約する際には、御理解していただけるまで説明を行い、同意を得て行っている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	入居者様が意見等を表現しやすいよう雰囲気作りに心がけており、スタッフは日々のコミュニケーションを通し、気づきができるように努力している。意見・不満・苦情などのマニュアルを設け処理簿に落とし、スタッフ間で共有し、会議等で話し合い運営に反映している。		運営推進会議等により、外部に入居者様の意見等を発信できる機会を設け、運営に反映できるよう取り組んでいる。
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	来所時や電話、手紙、ユニット新聞、ブログ等を利用し入居者様の生活状況など豊富な内容で報告している。		ユニット新聞やブログなどマンネリ化にならないよう工夫し発信している。
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	まだ不定期ではあるが家族会等を実施し、要望を聞く機会を設け、また面会時には御家族がスタッフに意見等を言えるような環境作りに取り組んでいる。入口正面に苦情相談窓口の案内を掲示している。意見・苦情等はスタッフ間で共有できるよう処理簿に落とし、会議で話し合い、運営に反映させている。		今後、家族会も定期開催できるよう努力し、実現に向けて取り組んでいきたい。
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	運営者や管理者は、日々スタッフの意見や提案を聞いたり、会議を設けてその意見を日常業務に生かしている。		
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	常にスタッフ同士で話し合い、入居者様の状況や変化に伴い、シフトの変更を柔軟に行えるように努めている。行事やレクレーションの際には、必要なスタッフを確保できるよう調整している。		今後も、急な病院受診などその時の状態に対応できるよう勤務の調整を図り、催し物や行事に対応できるスタッフの確保に取り組んでいきたい。
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	新規スタッフについては、なじみの関係が築けるまでの十分な時間の確保を今まで通り取り組んで、通常シフトに入ってもらっている。OJTにて日々教育を行い、利用者統一したケアが提供できるよう努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>講習会や研修会に多くのスタッフが参加できるよう努めている。定期のユニット会議にて、研修内容の報告や自主的な勉強会を行い、ケアの向上・スタッフのスキルアップに努めている。</p>	<p>今後もスタッフが学びたいと思う研修会は、積極的に参加できるよう環境作りに努めていきたい。</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>各種研修会への参加や、運営推進会議での同業者の参加等で、交流は以前より増えてきている。その中で、お互い今取り組んでいることや、共通した問題等を話す機会を多く設け、解決に向けている。</p>	<p>同業者との情報交換を密にして、サービスの向上とスタッフが悩んでいる問題の解決に向けて取り組んでいる。</p>
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>スタッフのストレスを軽減させる為、会議の時やカンファレンス時に、相談も取り入れたりまた日常的に聞き取りを行っている。</p>	<p>1対1で行われる個人スーパービジョン、集団で行うグループスーパービジョン、仲間同士で行うピアスーパービジョンを用いてスタッフの悩み、ストレスを軽減・解消に向けて取り組んでいきたい。</p>
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>運営者はスタッフ個人個人の努力・功績・勤務状況等を把握し、個人個人が向上心を持って毎日の業務に取り組む働けるように配慮している。</p>	<p>上記にも述べたようにスーパービジョンを用いて、スタッフの声を聞くように努力し、向上心を持って働けるような現場作りに励んでいる。</p>
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>入居に至るまでや入居初期には、御本人と接する時間を増やし、御本人が思っている事や不安に思っていることなどを良く傾聴したり、理解し、信頼関係を築けるよう努めている。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>御家族とはいつでも話す機会を持ち、今後の事を相談し、御家族が求めている事を良く傾聴し、より良いケアが提供できるよう努力している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居者様のニーズに合わせたケアプランの他に、入居者様・ご家族の希望・意向を取り入れたサービスが提供できるようその都度スタッフと話し合い、また御家族様と相談しながら支援を行うようにしている。		
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	御本人が昔から行っていることや、昔の話を混ぜ、スタッフや他の入居者様との接する時間を増やししながら、馴染めるように努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	入居者様と一緒に話をし、一緒にその話に共感し、一緒に過ごし、その生活の中のその場面場面で学んだり支えあったりとそのような関係を築いている。		
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	入居者様の思いや毎日の生活状況・身体状況等を御家族様が来られた際に話を設け、御家族様が知らない事のないように御本人の情報を共有し、関係を築いている。		
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	御家族様が来られた際に、スタッフが御本人と御家族様の間に入ったりして、最近の近況報告をし、御家族様との会話を広げられるようまたコミュニケーションが円滑に図れるようにしている。		
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	友人関係はだんだん疎遠にはなっているが、御家族とは途切れないように電話で連絡をし、近況報告を行ったりしている。		行事など友人・家族と一緒に参加できるような催し物や環境作りを取組んでいきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	日々、入居者様同士昔の懐かしい話で盛りあがることがあるので、スタッフは話のきっかけを提供したりして、話を広げ、どの入居者様も係われるように努めている。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	ホーム以外でも御家族と出会ったときは話をしたりし、大切なお付き合いをさせて頂いている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	御本人の思いやご家族様の意向を尊重し、把握し、サービスに取り入れている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	センター方式を取り入れ、今までの生活環境とかわらないような支援に努めている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	入居者様が過ごしやすい環境に近づけるように努め、入居者様の体調などを把握・考慮し暮らしに生かされるよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	介護計画の作成については、本人の必要としている事を家族に話し、そのうえで家族の意向やアイデアを基に介護計画を作成している。また常に入居者様本位を考慮し、生活の質の向上に向けての介護計画が作成できるよう努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	その都度関係者と話し合いを持ちながら、スタッフや御家族、必要な関係者との情報を十分に交換を行い、現状に即した介護計画を作成している。また期間に応じて変化が生じたときは、評価を行い、見直しをし、新たなニーズに向けてのケアプランの作成を行っている。		
38 個別の記録と実践への反映  日々の様子やけあの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに生かしている。	個別の介護記録に記入し、入居者様の健康状態や精神状態・入居者様の言葉など詳しく記録し、情報をスタッフ同士で共有し、介護計画に生かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	ホームとして御本人様や御家族様の状況、その時々々の要望にはいつでも支援できるようにしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	地域のボランティアに来て頂き、文化に触れる機会を設け、また市が主催しているイベント等には努めて出掛けるようにしている。		
41 他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	他の地域のケアマネやサービス事業者との話し合いの場を設けているが、まだまだ努力不足で他のサービスの活用には至っていない。		入居者様のニーズに合った支援を行っていきたい。
42 地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	地域包括支援センターと協働している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>43 かかりつけ医の受診支援</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>	<p>入居者様全員の掛かりつけ医師の確保は整っている。また訪問看護ステーションと契約を交わし、看護師との24時間体制も整っている。</p>		
<p>44 認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>	<p>認知症に詳しい専門医を受診し、治療・相談などを受けている。すぐ対応できるようにホームサイドで支援している。</p>		
<p>45 看護職との協働</p> <p>事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>	<p>事業所としての看護職員の確保はもちろん地域の訪問看護ステーションと契約を交わし、週に1度ホームを訪問し、健康チェックを行い管理をしてもらっている。何か異常があった場合でも相談し、適切な指示やアドバイスを受け、連携を図っている。</p>		
<p>46 早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p>	<p>入居者様が疾病等で入院した場合、管理者・スタッフが病院に伺い、病院関係者と情報交換を行い、退院に向けた備えを行っている。</p>		
<p>47 重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p>	<p>終末期のあり方について、御家族様または理解して頂ける御本人には、段階的に繰り返し話しをし、掛かりつけ医と相談しながら、スタッフ全員で方針を共有している。</p>		
<p>48 重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>入居者様やそのご家族が希望された方針を医師・訪問看護師などと連携を図り、協力してもらいながら、スタッフ一同が終末期に向けた支援を行っている。</p>		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49 住替え時の協働によるダメージの防止  本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	住み替え時は御家族とケアに関する関係者間で、十分な話し合いや情報交換を行いダメージを防ぐように努めている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
50 プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	入居者様の尊厳を大切に話し方をしている。個人情報には守秘義務を守り保管・管理している。		家族に了解を得ている。
51 利用者の希望の表出や自己決定の支援  本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	入居者様が何を訴えているのか、行動・言動はもちろん、気持ちに傾聴し、個々それぞれの入居者様に合わせた説明をし、納得されるよう支援している。		入居者様それぞれのニーズに合わせてサービスを提供していきたい。
52 日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	常に入居者様の希望に沿うことは難しい時間帯もある為出来ない時もあるが、笑顔で楽しく過ごされるよう支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、利用・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	理容室の方に連絡してホームに来て頂いている。外出をして美容院に行かれる方もいる。スタッフがホームでカットする場合もある。		御本人が望んでスタッフがカットする場合は御家族に了解を得てから行っている。入居者様と一緒に出掛け、洋服などを購入する事も行っている。
54 食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしているか。	入居者様の好みに合わせた献立を考えたり、入居者様とスタッフが一緒に料理を作ったり、準備をしたり、後片付けを行っている。		他の入居者さまと違う好みがあった場合は個々のニーズに合ったサービスを提供している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	入居者のそれぞれの好みに合わせて楽しんで頂けるよう支援している。		好きな飲み物、好きなおやつなどである限りニーズに合ったサービスを提供している。
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	入居者それぞれの排泄パターンを把握し、トイレ誘導、介助を行っている。		表情・行動などのサインを見落とさず不快な思いをされぬよう努めている。
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入居者の状態を把握し、できる限り希望を考慮し、入浴して頂けるよう支援している。		今まで以上に、入居者の希望に合わせるよう努めたい。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	入居者の生活リズムを乱さないよう、個別に自分の生活パターンで休んで頂けるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	昔よくしていた遊びなどスタッフと共に楽しんで頂いている。調理など得意な事を手伝って頂き、役割を持って頂けるよう支援している。		入居者様全員に楽しんで頂けるような遊びを考えていきたい。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	金銭管理ができない入居者様にも、スタッフが一緒に買い物に行けるよう支援している。		お金を所持していない入居者様との買い物は、スムーズに入居者様が買い物する事が出来るよう支援している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	畑の草取り、花の水やり、散歩など入居者様が望む限りスタッフが見守りの中で、支援している。		介助が必要な方や車いすの方などは、声かけ・誘導を行い、外の空気、季節感などを味わってもらえるよう支援している。
62 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが言ってみたい普段はいけないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	1年間の行事予定表を作成し、普段行けないところに出掛けられるよう対応している。		家族との交流を図れるような行事を考えて、入居者様が楽しいと思われるような行事に取り組んでいきたい。
63 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	家族からの電話は、その都度入居者様と話をし、手紙も渡している。また、その方の身近な情報を交換できるように支援している。		
64 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	御本人の希望又はその方のお客様の希望に応じて、フロアや居室で過ごして頂き、居心地の良い場所を提供している。また状況にもよるが、スタッフも同席して楽しい雰囲気作りの提供を行っている。		スタッフともコミュニケーションが図れ、馴染みの関係が作れるような雰囲気作りを行っている。
(4) 安心と安全を支える支援			
65 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	正しく理解し、実践している。		
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	正しく理解し、実践している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	ホーム内は利用者の生活の場である。時には更衣中であったり、入浴中であったりと、人には見られたくない時もある。スタッフにおいては生活の場で働いているという自覚を持ちながら、場面に応じた声かけなどをしながら対応している。		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	注意の必要な物品でもその利用者にとっては欠かせない物もある。利用者の状態に合わせた安全な場所に置き、スタッフが見守りを行いながら使用して頂くよう工夫している。		利用者が生活する上で、不便さや不満を抱かないよう配慮しながら今後も行っていきたい。
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	ホーム内において定期的に勉強会を行い、知識の向上を図ったり、救命方法を実際に学びに行くなどして咄嗟のときでもすぐ対応できるようにしている。常に利用者の身体の変化の情報をスタッフ間で共有し、予防を心がけたり、利用者の内服薬についてもスタッフが把握できるよう努めている。また定期的に消防訓練も行っている。		今後も定期的に勉強会や訓練を行い、防止に努めていきたい。また利用者一人ひとりの状態を把握し事故につながるような介護ではなく防止につなげられるような介護を目指していきたい。
70 急変や自己発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	急変や事故発生時に備え、定期的に救命法を習ったり、火災訓練などを実施している。急変時にスタッフがすぐ対応できるよう事務所にマニュアルを掲示し、迅速な行動ができるようにしている。		
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	定期的に訓練を行い、どのように対応すれば良いかを周知徹底していると共に、町内会の方々とも連携を図り、災害時に協力して頂けるように努めている。また町内会の行事にも参加し、日頃よりグループホームとはどのようなところなのかを理解して頂けるよう努力している。		災害はいつ起きるかわからないものであり、スタッフがどんな時でも対応していかなければならない。しかしスタッフだけでは限界があることも事実であり、地域の方々との交流を通して、ホームへの理解を深める事が大切と考え今後も協力して頂けるよう交流を継続していきたい。
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	利用者が入所される際、起こりうるリスクについて説明していると共に、日頃より家族との交流の中で利用者の状態などを説明して、利用者がホーム内での生活の中で穏やかに生活が送れるよう家族の意向も含め、対応策を話し合っている。また利用者自身今までの生活歴を家族から情報収集し、利用者がどのような生活を送りたいのかも念頭に入れ、スタッフも利用者との交流をし考えながら介護を行っている。		利用者が生活していく中で、様々なリスクが伴う。利用者一人ひとりがその人らしい生活を送る上でまた身体状況も変わっていく中で、いかにリスクを減らしながら、穏やかに生活して頂けるか大切なことであり、今後も家族との交流の中で検討して行く必要がある。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p>		
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>		<p>服薬支援は持病を抱えている利用者にとっては症状を悪化させない大切なものであり、高齢者であれば副作用のリスクも高まってくる。介護する上で服薬して頂くことも大切であるが副作用により、体調に異変が生じることのないよう観察が必要であり今後も継続して行っていきたい。</p>
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。</p>		
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。</p>		
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>		<p>栄養摂取や水分摂取も疾患予防や悪化に大きく影響を及ぼす。その事を念頭におき、利用者一人ひとりに応じた対応を行っていきたい。</p>
78	<p>感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79 食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	朝・昼・夕食は毎食ごと手作りし、作り置きはせず、暖かい物をその場で提供できるように努めている。食中毒の予防も徹底し、頻繁に使用するふきん・マナ板等は毎回除菌している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
80 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	各ユニットに玄関(2ヶ所)があり、わかりやすくなっておりユニット名もわかるように掲示している。各ユニットで出入りが自由にできるようにしている。		
81 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用にとって不快な音や光がないように配慮し、生活観や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	特に居間に当たる場所(フロア)や廊下には入居者様とスタッフで作った作品を展示したり、また行事ごとの写真を貼り、入居者様に楽しんで頂けるようにしている。また写真からも季節感を感じて頂けるようにしている。		
82 共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	居間に当たる場所には4つのソファを置き、入居者様全員が座れるようにスペースを作り、談笑したり皆でお茶を飲んだりとゆったりとまったりと過ごして頂けるよう工夫をしている。		
83 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	各入居者様の居室はベッド以外の家具等は今まで使い馴れた又は馴染みの物を配置し、これまでの生活環境に近づけるように心がけている。		
84 換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	居室には空気清浄機を設置しているが、夏場は窓を開け空気入れ替えをし、冬場は暖房の調整を図り加湿器を使用し、空気の乾燥に気をつけている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>		
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>		
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>		<p>畑で採れた野菜を中心にしたメニューを立てて、ミニ収穫祭を開催したいと思っている。</p>

. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある 毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています ほぼ全ての家族 家族の2 / 3くらい 家族の1 / 3くらい ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない



. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>大いに増えている            少しずつ増えている            あまり増えていない            全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働けている</p> <p>ほぼ全ての職員が            職員の2/3くらいが            職員の1/3くらいが            ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>ほぼ全ての利用者が            利用者の2/3くらいが            利用者の1/3くらいが            ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>ほぼ全ての家族等が            家族等の2/3くらいが            家族等の1/3くらいが            ほとんどいない</p>

入居者様が、居心地の良い場所で自分らしく最後まで生活出来る環境作りに、スタッフが心がけて日々努力している。